

「むら」の幸せってなんかねえ？

～阿武町から「むら」を考え直す公開セミナー～

今、日本だけでなくアジア全体で「むら」の存続が危ぶまれています。セミナーでは、高知県大豊町の怒田（ぬた）集落の存亡をかけた取り組みについて学ぶとともに、ラオス、ブータン、ミャンマーの農業・農村の実態を把握したうえで、阿武町のむらづくりについて意見交換を行います。「むら」で豊かに生きることとはどういうことなのか、本当の幸せとは何かをみんなで考えてみませんか？みなさまのご参加をお待ちしています。

日時：**平成23年8月1日（月）**

（14時から17時頃まで）

場所：**のうそんセンター（参加費無料）**

＜プログラム＞ 司会進行 辰己佳寿子（山口大学）

セッション①「なぜ、今、『むら』なのか」

基調講演「くに（里）、人の相互啓発による農村開発の可能性」安藤和雄（京都大学）

コメンテーター 中村秀明（阿武町 町長）

セッション②「高知県の『むら』」

報告「高知県大豊町における高知大学の取り組み」市川昌広（高知大学）

報告「高知県大豊町における一集落の存亡」氏原学（農家）

コメンテーター 白松博之（阿武地域グリーンツーリズム推進協議会 会長）

セッション③「アジアの『むら』」【逐次通訳】

報告「ラオス・国立大学農学部における農村開発教育と実践」

Mr. Somphanh PASOUVANG（ソンパーン・パスワン）（ラオス国立大学農学部副学部長）

報告「ラオス・タチャンパ村での民俗文化資料館活動」矢嶋吉司（京都大学）

報告「ブータンの農村開発」

Mr. Yezer（イエーゼル）（ブータン王立大学シェルブッシュ・コレゾ地理学科学科長）

報告「ミャンマー中央平原における犁先作り農村工場の実態と可能性」

Ms. Myint Myat Moe（ミンツ・ミヤット・モエ）（イエジン農業大学大学院修士課程2年生）

報告「ミャンマーにおける農業普及」

Dr. Khin Oo（キン・ウー）（イエジン農業大学栽培学科教授）

コメンテーター 茂刈達美（阿武地域グリーンツーリズム推進協議会 副会長）

＜問い合わせ先＞阿武町役場 経済課 08388-2-3114

＜共催＞京大大学生存基盤科学研究ユニット、京都大学東南アジア研究所、

高知大学自然科学学系「中山間プロジェクト」

阿武地域グリーンツーリズム推進協議会、やまぐち国際協力の里ネットワーク

＜後援＞阿武町、山口大学エクステンションセンター、